

**平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和元年 12 月
海老名市立海老名小学校**

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

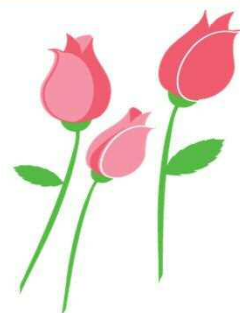
- (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

平成 31 年 4 月 18 日（木）



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方や工夫を捉える
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
- ・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
- ・目的に応じて、質問を工夫する
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。
- 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること。

◆課題のある点

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。
- 情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。
- 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 書く目的や意図に応じて文章全体の構成や表現を振り返る時間を設ける。また、児童同士が互いに文章を読みあい、具体的に助言しあう場面を学習の展開の中に取り入れる。
- 説明文などの学習の際、接続語を用いるよさを理解させ、児童が積極的に活用できる場面を設定する。
- 様々な言語活動や学習場面を活用して、書く力を高める。さらに、目的や相手を意識して自分の考えを書いたり、決められた条件の中で文章を書いたりする活動を通して書く力の育成を図る。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・台形について理解している
- ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
- ・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる
- ・2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる
- ・資料の特徴や傾向に関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる
- ・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる
- ・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる
- ・示された除法の式の意味を理解している
- ・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
- ・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述し、その結果から判断できる

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- 四則の混合した整数、小数の計算をすること。
- 複数の情報の中から、必要な情報を選択し、立式をすること。

◆課題のある点

- 図形の性質や構成要素に着目し、図形に関わる数学的活動を通して、生活や学習に活用すること。
- 知識としては、理解しているがその求め方などについて、言葉や数を用いて記述すること。
- 既習事項を生かして、新たな問題を解決すること。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 図形の性質の考察において、観察や構成などの具体的操作を重視し、図形についての感覚を豊かにするとともに、身の回りの事象の特徴を捉える力などを養っていく。
- 図、数、式、表、グラフといった数学的な表現の方法を問題解決に生かしたり、思考の過程や結果を表現して説明したりする機会を増やす。
- 単に問題を解決するのみならず、問題解決の過程や結果を振り返って、得られたことを捉え直したり、新たな問題を見出したりすることで、既習事項と関連づけができるようにする。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「国語の勉強が好き」「国語の勉強は大切だと思う」と答える児童が全国平均より多い。重要な語句を探したり、段落どうしの関係を考えたりしながら、文章を読むなど、意欲的に取り組んでいることが分かる。

◆本校の課題と思われるところ

- 算数の学習は大切だと思っており、意欲も高いが、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の質問項目に「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が全国平均より高い傾向にある。身につけた学習内容を日常的には活用している。しかし、それが興味・関心を高めることには、つながっていない。

生活について

◆本校のよかったところ

- 読書を好きだと考えている児童が多い。また、1日あたり30分以上読書をする児童の割合も全国平均と比べて顕著に高い。
- 物事を最後までやり遂げてうれしかったという児童が多い。

◆本校の課題と思われるところ

- 地域行事への参加は全国平均と比べると低い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童が全国平均より低い傾向にある。

今後の具体的な取組について

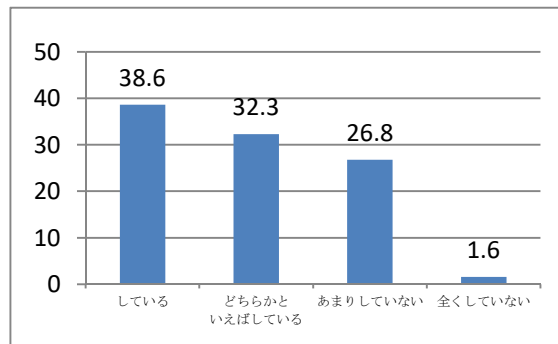
- 算数の学習において、身近な生活場면을提示したり、実生活で目にする具体的なものを教材として扱ったりするなど、自分の生活と密接に関係する学習だと実感できるように指導や支援に努めていく。
- 読書に親しんでいることが分かるので、学校図書館運営をより工夫することで、幅広い種類の本に触れて、さらに児童の知識を深め、豊かな感性を育てていく。
- 児童が前向きに目標に向かっていくことができるよう、日々の成功体験を積み重ねるとともに、将来に向けてのキャリア教育の充実を図る。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 子どもの自発的な学びを見守り、励ましましょう。

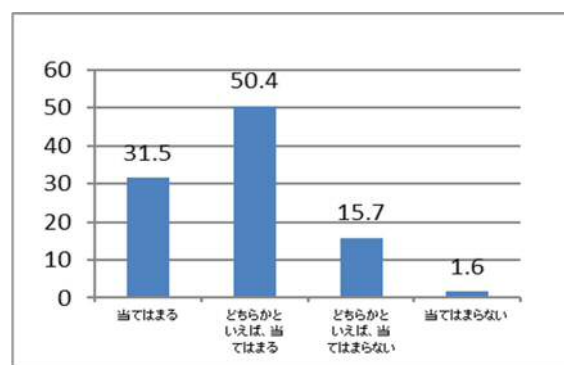
自主的・主体的な活動は子どもの心の充実や自信へつながり「考える力」を育みます。



家で自分で計画をたてて勉強をしていますか。

2 子どものチャレンジする心を大切に育みましょう。

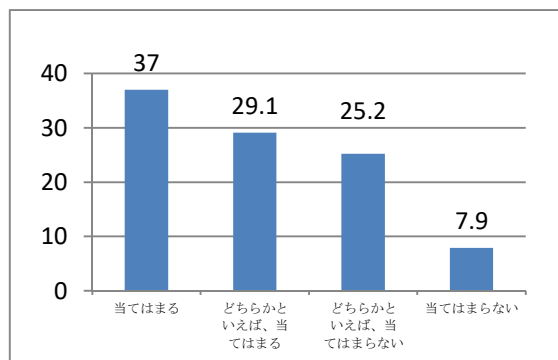
褒められることで自己肯定感が高まり挑戦意欲が培われます。



難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。

3 国際感覚を養い、子どもの興味・関心を広げましょう。

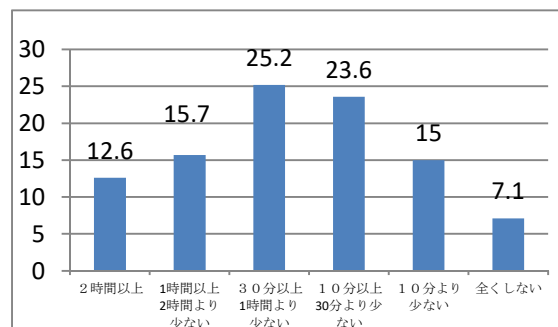
国際感覚を養うことは、これからの国際社会に生きる子どもたちの視野を広げることに繋がります。



外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしてみたいと思いますか。

4 読書の時間をつくり、本を読む習慣を身につけましょう。

本は心の栄養です。読書は知識や語彙を増やし、心を豊かにします。



学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。
全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様に市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

